

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成21年5月7日(2009.5.7)

【公表番号】特表2008-533190(P2008-533190A)

【公表日】平成20年8月21日(2008.8.21)

【年通号数】公開・登録公報2008-033

【出願番号】特願2008-502394(P2008-502394)

【国際特許分類】

A 0 1 N 47/02 (2006.01)

A 0 1 N 51/00 (2006.01)

A 0 1 N 25/00 (2006.01)

A 0 1 P 7/04 (2006.01)

【F I】

A 0 1 N 47/02

A 0 1 N 51/00

A 0 1 N 25/00 1 0 2

A 0 1 P 7/04

【手続補正書】

【提出日】平成21年3月18日(2009.3.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

相乗的有効量で、活性成分として、クロチアニジンとフィプロニルとを含む殺虫剤混合物。

【請求項2】

100:1~1:100の重量比でクロチアニジンとフィプロニルとを含む、請求項1に記載の殺虫剤混合物。

【請求項3】

請求項1または2で定義された混合物および農学上許容される担体を含む、作物保護組成物。

【請求項4】

播種前および/または予備発芽(pregermination)後に、種子を請求項1または2に記載の混合物と接触させることを含む、種子の保護方法。

【請求項5】

種子100kgにつき0.05g~10kgの量で請求項1または2に記載の混合物を施用する、請求項4に記載の方法。

【請求項6】

動物害虫(animal pests)、それらの生息環境(habit)、動物害虫が生育しているか、もしくは生育し得る飼育場(breeding ground)、備蓄食料(food supply)、植物、種子、土壌、区域、材料もしくは環境、または有害な害虫の攻撃もしくは加害から保護しようとする材料、植物、種子、土壌、表面もしくは空間を請求項1または2に記載の混合物と任意の好ましい順番で、または同時に接触させることを含む、有害な害虫を駆除する方法。

【請求項7】

同時に、または任意の望ましい順番で、すなわち、一緒に、または別々に、相乗的有効

量の請求項 1 または 2 に記載の混合物を植物、植物の一部または植物が育つ場所に施用することを含む、植物の健康を改善する方法。

【請求項 8】

同時に、または任意の望ましい順番で、すなわち、一緒に、または別々に、相乗的有効量の請求項 1 または 2 に記載の混合物を施用することを含む、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

請求項 1 または 2 に記載の混合物を 0.1g/ha ~ 2kg/ha の量で施用する、請求項 7 または 8 に記載の方法。

【請求項 10】

種子を保護するための請求項 1 または 2 に記載の混合物の使用。

【請求項 11】

種子 100kg につき 0.05g ~ 10kg の量で請求項 1、2 または 3 に記載の混合物を含む種子。